

令和5年度 土浦日本大学高等学校通信制課程自己評価結果

本校の目指す学校像	<p>日本大学の建学の精神を礎とし、生徒一人一人の夢の実現に向けた努力へのサポートを目指しています。</p> <p>(1) 校是として掲げる「調和・至誠・自立」をもとに、広く世界の文化を受容し、自らの道を自ら切り拓くことのできる、心身ともに健全な文化人を育成します。</p> <p>(2) 次の時代の先駆者となるべく目標と覚悟を持つ生徒を育成します。</p> <p>(3) 自ら学び、自ら考え、自ら道を開いていくことができるよう努めます。</p>
-----------	---

本校の特徴および課題	<p>本校は、日本最大級の規模を誇る総合大学「日本大学」の附属高校であるという安定した基礎の上に、生徒の自主性を尊重しつつ、一人一人をしっかりとサポートしていきます。土浦日本大学学園全体でそれぞれの生徒に適した学習の場を提供し、進路や将来を見据えた悩みなどにカウンセリングを中心として、一人一人の多様性に応じた支援にも取り組みます。日本大学付属校のメリットを活かした進路指導に努め、生徒一人一人の目標進路達成を目指して進路指導に取り組みます。</p>
------------	---

令和5年度取組結果	<p>通信制課程開校3年目で、入学生14名、第2学年36名、第3学年33名の83名で令和5年度をスタートした。5月から転校生、転籍生があり、年度末には111名の在籍となった。</p> <p>令和5年度の卒業生は35名で進路については、日本大学へ内部推薦試験にて文理学部、経済学部、理工学部、生産工学部、松戸歯学部、生物資源学部等に12名が進学している。また、富山大学薬学部にて1名が合格した。その他、明治、中央、東京理科、津田塾、芝浦工業等の難関大学を含め、私立大学18大学、専門学校2校に合格者を輩出した。</p> <p>生徒一人一人のニーズに適したコース（進学、通学、一般、スポーツ・芸術）選択により、個々の夢の実現達成に向けた体制を整えている。</p>
-----------	---

目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況	<p>A：取組目標が達成された B：目標はおおむね達成された</p> <p>C：課題を多く残している D：成果が出ていない</p>
-----------------------	---

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動（教務）	①目標の設定について	生徒一人一人の進路目標に即した学習指導、ICTを活用した学習の実践。日本大学推薦入試に向けた模試の実施。	A
	②活動の実際について	生徒個々の学習への進捗状況をつねに把握し、保護者とも連携して、個性ある個に応じた指導を展開した。シラバスを作成し、生徒の学習ペースが保たれるように努めた。	A
	③活動の点検について	生徒の中には学習ペースが保たれずに、レポートの作成・提出が遅れる状況が散見した。遅れた背景を追求し、適切な指導、支援を構築し、保護者との連携を含めて実践的な取組が必要である。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導（教務）	①目標の設定について	新学習指導要領に即した新カリキュラムの実践を推進する。	A
	②活動の実際について	新学習指導要領・基礎学力到達度テスト及び大学入学共通テストに即したカリキュラムを実践し、生徒一人一人の希望進路に対応できるように、コース毎に取り組んだ。	A
	③活動の点検について	新学習指導要領に対応するカリキュラムが完成し、2年生まで実践できた。常に進捗状況を振り返り、年度の途中であっても改善を目指した。また、各コースの提示用カリキュラムも準備が整った。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への配慮（生徒指導）	①目標の設定について	生徒一人一人の生活習慣や心身の状況を踏まえた生徒指導を実践する。登下校時には、教職員から積極的に声掛けをする。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人が様々な悩みを抱えているため、背景を踏まえた生徒指導が必要である。特に、心因的な課題については、教職員全員の共通理解を図りながら対応に望む必要がある。また、登下校時の積極的に教職員から声掛けや必要に応じて家庭訪問や三者面談を行い、生徒、保護者と良好な関係が構築できるように努めた。	A
	③活動の点検について	教職員が生徒一人一人の生活習慣や心身の状況を把握したうえで、指導に活かすことができた。また、登下校時の声掛け、家庭訪問や三者面談を通して生徒、保護者との信頼関係構築にとって素晴らしい効果があったと考える。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導を徹底する。日本大学付属高等学校等基礎学力到達度テストへの適切な指導に取り組む。大学進学のための推薦書、調査書の適切な作成や面接指導・論文指導を推進する。日本大学出張講義への参加をサポートする。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導が教職員全員の共通理解のもと展開された。	A
	③活動の点検について	生徒一人一人の希望進路に即した指導により、素晴らしい進路を達成できた。本年度の卒業生は35名で、日本大学へは経済学部、理工学部をはじめ8学部12名が進学した。また、国立富山大学、明治大学、中央大学、東京理科大学、津田塾大学など、国立1大学、私立4年生14大学、2短期大学、通信制3大学や専門学校2校に合格している。日本大学出張講義へ数名が参加者した。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	生徒、保護者からの教育相談に適宜対応する。	A
	②活動の実際について	生徒、保護者からの教育相談を適宜受けられる体制を整え、カウンセラー、全日制の教育相談部との連携を図る。また、必要に応じて家庭訪問、三者面談をおこない、生徒、保護者と課題を共有して解決を図った。	A
	③活動の点検について	教育相談体制を構築しつつ、希望者にはリモート相談も活用するなど、適宜対応することができた。また、必要に応じて家庭訪問、三者面談を実施したことは、課題解決及び信頼関係構築に結び付いた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	本校で掲げた「いじめ防止基本方針」に示された『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取組に対するの共通理解を深め、いじめ根絶を目指す。	A
	②活動の実際について	生徒の交流がほとんどないため、『未然防止』に努めることに重点を置いて指導した。	A
	③活動の点検について	今後、生徒の増加が見込まれ、『未然防止』だけではなく、『早期発見』、『適切な対応』、『再発防止』の3項目の取組が重要になると考えられる。、教職員の見守り、カウンセラーとの連携体制の構築を推進する。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	9月の新校舎竣工により右叡桜キャンパスを会場として高校生、中学生を対象とした進路説明会を適宜実施する。県内、千葉県隣接地域、栃木県隣接地域の中学校・高校を訪問して広報活動を充実する。 通信制課程等連絡協議会主催の進路相談会、私学フェア等への参加。ホームページのリニューアル。学校案内のリニューアル。新聞広告への掲載等に取り組む。	A
	②活動の実際について	年間を通して広報活動を展開した。 新校舎を活用した進路相談会を8回実施し、多くの生徒が参加した。また、中学校、高等学校への訪問を通して広報した。茨城県通信制課程等連絡協議会における情報収集、通信制相談会へ参加や私学フェア等へも参加して、生徒保護者へ接するなど、認知度アップに努めた。ホームページの更新や、学校案内のリニューアルを展開した。	A
	③活動の点検について	新校舎を活用した進路説明会は相応の成果があり、次年度には回数、時期を再考して、生徒確保に臨む。また、中学校、高等学校における生徒の転学時期を踏まえ、より効果的な時期を見計らう必要がある。計画を見直し、効果的な募集活動を推進する。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①新校舎増築, それに伴う機器備品の整備 ②事務処理の円滑の遂行 ③教務・広報との連携 ④入学式, 卒業式の実施 ⑤つくば方面スクールバスの運行	A
	②活動の実際について	<p>生徒数増加により、既存の右叡桜キャンパス校舎に隣接して新校舎増築を着工し、9月に竣工することができた。平日の授業および夏季・冬季スクーリングにおいて3学年同時展開できる教室数を確保するとともに、生徒の履修状況に応じた少教授業展開や個別面談・指導への対応、自習室の設置に柔軟に対応できるよう各教室に防音性の高い可動式間仕切りを設置した。また、新校舎増築に伴い、机・椅子等の基本設備、ICT設備(LAN・プロジェクター等)を整備した。</p> <p>新入生対象の「新入生説明会」を実施した。</p> <p>全日制課程庶務部の協力のもと、第3回入学式、第3回卒業式(集会室)に多くの在校生が参加し、厳粛に盛大に挙行された。</p> <p>個々の生徒の単位取得数・必要な学習支援に応じて納付金を収受することが必要なため、申込書類等と照合の上、適切に事務処理を行った。また、合格書発行まで教務・情報処理と連携し遅滞なく事務処理を行った。</p> <p>つくば研究学園方面からの生徒が増加傾向にあり、年度当初より朝の迎え便を増発した。生徒、保護者にも好評で、1月より朝、昼、夕の送迎に移行して利便性を向上し、生徒確保に繋げた。</p>	A
	③活動の点検について	<p>新校舎増築に伴い、充実した授業が展開できるようICT設備の整備をはじめとした学習環境の整備を引き続き行うとともに、保護者面談・見学者スペースの機器備品の整備を図っていく。</p> <p>全日制の施設を利用する場合に、全日制校務分掌との連携を図っていく。今後、運営上、さらに必要となることを検討し精査する。教務・入試・事務処理を円滑に行っていくための業務ソフト等を検討していく。</p> <p>つくば研究学園方面からの生徒が増加傾向にあり、次年度に向けてつくば駅送迎の効果的な改善を模索し推進する。</p>	A